

福 島 市 総 合 教 育 会 議 記 録 (第 2 回)
平成 2 7 年 1 0 月 1 4 日 (水) (市 長 応 接 室)
1 3 時 3 0 分 ~ 1 4 時 5 4 分

出席者 (6 名)			
市長	小 林 香	教育委員	中 村 恵 子
教育委員長	芳 賀 裕	教育委員	佐 藤 玲 子
教育委員	大 野 順 道	教育長	本 間 稔

陪席者 (2 名)	
副市長	安 齋 睦 男
	政策統括監 紺 野 喜 代 志

事務局出席者【総務部】			
総務部長	高 梨 敏 則	総務課長	三 浦 裕 治
総務部参与兼次長	羽 田 昭 夫	総務課係長等	

事務局出席者【教育委員会】			
教育部長	菊 地 威 史	文化課長	齋 藤 義 弘
教育部次長	熊 坂 俊 則	保健体育課長	寺 内 勝 宜
教育総務課長	矢 吹 淳 一	中央学習センター館長	齋 藤 弘 之
学校教育課長	古 関 明 善	こむこむ館副館長	千 葉 修
生涯学習課長	會 澤 和 夫	各課係長等	

1 議 題

1. 開 会
2. 市長あいさつ
3. 教育長報告
 - (1) 新教育振興基本計画の素案について
4. 新教育振興基本計画と大綱の関係及びスケジュールについて
5. 閉 会

午後 1 時 30 分 開 会

(三浦総務課長) まず、開会に先立ちまして、本日、大野委員より少し遅れる旨のご連絡をいただいておりますのでご報告申し上げます。

それでは、定刻となりましたので、ただいまから第 2 回目となります福島市総合教育会議を開会いたします。本日の進行を担当いたします総務部総務課長の三浦裕治と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、小林市長からあいさつを申し上げます。

(小林市長) はい。皆さんどうもこんにちは。本日は教育委員の皆様方、大変お忙しいと

ころご出席いただきましてありがとうございます。

そして、日頃から福島市の教育行政のためにご尽力をいただきまして、重ねて御礼を申し上げます。

4月に福島市の総合教育会議を立ち上げたところでございますけれども、それ以来この間、教育委員会におかれましては、平成28年度から32年度までの5カ年にわたります本市教育委員会の最高位の計画であります教育振興基本計画の策定作業を進めていただいているところであります。そして、今般その素案がまとまったということ伺っているところでございます。本日の会議におきましては、素案の内容につきまして教育長からご報告をいただきまして、その内容について十分理解を深めた上で、今後教育振興基本計画を福島市の教育の大綱として位置づけることも含めまして協議をしてみたいと思います。

是非とも宜しく願います。

(三浦総務課長) 続きまして、3番の教育長報告に入りますが、今ほど市長のごあいさつにもありましたとおり、福島市教育振興基本計画の素案が教育委員会において策定されたということですので、まず初めに教育長からその内容についてご報告をいただきまして、それに対して市長と意見交換をさせていただきたいと思っております。

それでは、教育長よろしく願います。

【本間教育長より別添資料の福島市教育振興基本計画【素案】の内容について報告】

(三浦総務課長) はい。どうもありがとうございました。ここからは、自由な形での意見交換というふうにさせていただきたいと思っております。ただいまの教育長の報告を受けまして、市長からご意見、ご質問のほうをお願いしたいと思っております。

(小林市長) はい。福島の現状を踏まえた案になっているのではないかと思います。その中で私もちょっと幾つか気がついたところ、思うところがありますので、そんなところを少しお話させていただければと思います。

まず、3ページの確かな学力のところですね。2番の基本方針の(3)のところ、教育的ニーズをふまえ、グローバル化に対応する子どもを育てます、のところなのですが、やはり今、特に原発事故で世界が日本を、そして福島を注目していますので、逆にこういう機会には我々福島の人間のほうも世界に対して目を向けるべきではないかと常々話をしているのですが、そういう一環として中学生がオーストラリアのブリスベン市にあるカランヴェールコミュニティカレッジにですね、30名ほどでしたっけね。1週間ほど行ってきましたけれども、そういう取り組みをやっていくことも必要なところと、海外に行ったから一挙に何かそういう視点が育つというものではないかと思っておりますけれども、1つのいい機会にしてもらえればと思っております。

あとは、常日頃学校教育の中で、そういう視点も取り入れていく必要があるのかなと思っております。これは、特にはその小学校であれば社会科の授業になるのかもしれませんが、場合によっては、何と申しますかね、次のところの豊かな心のところで郷土への理解という内容が入ってきておりますけれども、例えば子ども達が将来どういう職業につく

か、あるいはどういう取り組みをやっていくか、どういう大人になりたいかというのを考えた時に、例えば朝河貫一先生は、この福島の立子山で育って、中学1年まで福島で勉強されたということですよ。中学2年になる時に福島中学が郡山市に移ったがために向こうに行ったわけですけども。そういう郷土の偉人というのか素晴らしい人の再認識というのか、そういったことも必要なのかなと思いますけれども。

とかく朝河貫一先生は、二本松とか郡山で高く顕彰されているわけなのですけれども、福島市では、あれどうしたのかなという感じがちょっとしているのですが、それは教育長とも何度かそういう話をしているのですが、もっと我々福島市の人も二本松、郡山でやってもこういうのは福島も一緒にやってもいいのではないかなと思うのですがね。もっと朝河先生にも目を向ける。明治時代にアメリカに渡って、そして戦前まで活躍されたわけですけども、そういうふうに生まれたところが福島だから国際的な人材にはなれないっていうものではまったくないと思うのですね。いかに高い意識を持つか、目をどこに向けるかということで人間の人生というのは変わってくるものだと思いますね。そういうことを学校教育において配慮してもらえたらありがたいなと思いますね。お父さんお母さんの教育指導も極めて重要ですけども、やはり学校で過ごす時間が児童生徒の場合には長いわけですからその影響力というのは、かなりのものがあると思うのですけれども、そういうところでいい感化ですね、それに触れることができればいいなと思いますけれどもね。

あとは、この教育的ニーズを踏まえ、というところなのですけれど、本間教育長になってから、理数系の教育に力を入れてもらっていて、それはすごくいいなと思っているのですけれども、福島市の発展のためには市内の企業の振興も大事ですし、それから企業誘致も大切だと思っています。企業は工場などを造る際にどういったことを考慮してその場所を決めるかということ、幾つかの要素がありますけれども、それは適当な土地があるか、あるいは工場を造る際に何か優遇措置があるかとかそういうものがあるわけですけども、1つには、いい人材をとれるかどうかということも重要な要素になっているのは間違いないですね。

そういう時、福島で企業に対して求められる人材を十分供給していけるのかということが実は大事でして、それを学校関係者にもですね、もう少しこの理解をしていただき、力を入れてもらえるとありがたいと思いますね。

高校にもなりますと、高校の先生方、特にその工業系の学校においては先生方、まさにそこに力を入れてくださっているわけですけども、しかし、高校になってからいきなりではなくて、やはり中学校あるいは小学校のうちからこの福島でも……

今日もある企業の方が来られていろいろお話を伺ったのですが、素晴らしい技術を持っているのですね。そういう市内の企業、工場にも学校関係者はもっと関心を持っていただいて、子ども達が将来自分はどのような仕事に就くかということを考える際のいい判断材料にしてもらえればいいなと思いますけれども。そして、求められる人材を供給できるような学校、地域であってほしいなと思うところでございます。

そういった意味でこの理数系だけではなくて、全体的なバランスということが一番大事なわけですけれども、しかし、この全国の学力調査の結果をみると福島県全体としては、まだまだこう芳しくない状況にありますので、福島市は、元々県庁もあり、そして福島大学、そして県立医科大学、その他にも私立の大学もあり、また企業の集積もそれなりにあるわけですし、お父さん、お母さん方というのは、県内全域でみた場合には、かなり高いレベルにあるのは間違いないのだと思うのですよね。ですから子どもさん達もそういう素質を間違いなく持っているはずですので、それをうまく引き出してあげることが必要なのかなと思うのですね。このようなことを考えてやっていただければありがたいなと思いますけれども。

そして、この全国トップレベルの学力ということで書いてあって、私はこのくらいのことを書いたほうがいいのかと思っているのですけれども、それはこういうことを書くととかく教育関係者は、学力だけが全てではない、というようなことをおっしゃる方もいるのですけれども、それこそ全国トップレベルなんて本当になれるのかという人も実際にいるわけなのですけれども、しかし、子ども達のですよね、将来の可能性をより広げるためには、学力というものは不可欠なのだと思いますね。

そして、どうやってトップレベルになるか、到達できるのだという人もいるのですけれども、この東北の秋田においては、間違いなくトップになっているのですね。同じ東北の秋田にできることがなんで福島ではできないのかと思うわけですけれども、そこはそのいろいろ工夫をしていただければ、そうした進んだ地域の取り組みなども参考にしていれば、ここ福島だって間違いなくそうなれる可能性は十分にあると私は思っているのですけれども。

そして、あと、4ページのですよね、主な指標のところではバランスド・アチーバーとオーバー・アチーバーの合計の割合とあって、小学6年生の現状値は、92.1%でそれなりに高いのかなと思ってみたのですけれども、中学3年生が、85.7%で小学6年生に比べると低い数値になっているのは、これはどうしたのだろうなというふうはこの数値だけ見ると思ってしまうのですけれども、このあたりは何ていうのでしょうかね、分析というものは多分必要なのだと思うのですけれど。

今言ったことは何か文言を修正するとか数字を変えてほしいという話ではありませんけれども、個々の数字に表れているこの違いは何なのか、それはきっちりと検証する必要があるのではないかなというふうに思いますね。そして、目標値がそれぞれ100%になっていますので、是非そうならもらえればありがたいなというふうに思いますね。

そして、次のところですかね、5ページになりますが、豊かな心の目指す姿としまして、郷土への理解、誇りと自信ということがあって、これはとても大切なことだと思っ
ていまして、時々私もお話をしますが、この福島市の人とはかくこの悪くいうと醒めているとい
いましょうか、あまり郷土に対しての自信を持っていない、福島市のことを誇らしく
語る人をあまり見たことがないのですが、私はそれがすごく残念だと思っているのです

けれども。

我々の福島市は、歴史もかなり古いものがある、語れるものっていうのは間違いなくたくさんありますよね。それが宮畑遺跡に始まり、そして実は宮畑遺跡よりもさらに古い石器時代の遺跡も福島市にあるわけですし、石器時代の遺跡まで持ち出してもなかなかどうかという感じもしますけれども。しかし、この宮畑遺跡は間違いなく全国に誇れる史跡なわけですから、そして縄文時代以降もですね、弥生時代そして古墳時代、そして奈良時代も福島市近辺にはそれなりに人々が住んでいて、仏教がこのあたりは栄えたところなのですね、福島市は。霊山よりもこの福島の盆地に古いお寺が造られた時期は早かったのではないかなと思いますけれども、福島市内にも古いお寺の跡がありますし、飯坂も当然そうですね、ですから仏教文化に関しても会津は恵日寺もあり、そしていろいろ立派な仏像もあり、会津が注目されるのですけれども、そうではなくてこの福島市も仏教がかなり栄えたところなのだと思うのですけれども、福島市そして県北一体がそうだったと思うのですが、残念ながらそういう痕跡がちょっと少ないこともあって、あまり認識されないのかなと思うのですけれども。

あとは、その飯坂の佐藤一族とか、あとは余り確かな資料は残っていないようだけれども、森鷗外の山椒大夫にでてくる安寿と厨子王、それが渡利の弁天山の後ろの椿館に住んでいたといわれているところもあるので、そういう福島市に対する理解というのをやはり小さいうちから深めてもらうのがいいのではないかなと思いますけれどもね。

それで歴史ハンドブックを作ることを予定としていますけれども、とりあえず小学校高学年用でしたかね。しかし、中学校でも使えるでしょうし、あとは、一般の方にも読んでもらえるようなものになればいいなと思っているのですけれども、そういったことでみた時に、この目指す姿のところには、郷土への理解とか誇り自信とかがあるのですけれども、この基本方針の中にもそういうことを文言として盛り込んでもらえるといいなと思うのですけれどもどうなのですかね。

例えば、これは学校教育のところですかね、豊かな心というのは。そうですね。1ページを見てみますと(1)の学校教育の充実のところですよ、これは。市民文化の振興にもそれらしくは入ってはいますけれども、やはり学校教育の中でもそういった取り組みをやってもらえるといいかなと思うのですけれども。

例えば2番の(1)の基本方針の中に、郷土への理解を深める取り組みを行うとともにとか頭に入れていただくとか、郷土への理解を深める取り組みを行うとともに豊かな人間性、社会性をはぐくむ体験活動を推進します、という文言ではいかがでしょうかね。

(本間教育長) (1) 番の頭のほうですかね。

(小林市長) ええ、そうですね、はい。

(本間教育長) 今、実際ふくしま・ふれあい・夢・ぷらんということで小学生に対して地域への理解とかそういったことも実施しているわけですが、そういったものを拡充する中で、例えば地域理解として、医王寺なら医王寺付近をバスで周ってくるとかそうい

ったような事業展開とか、どんな形とするかはまた別ですが、ふくしま・ふれあい・夢・ぷらんの事業を拡充して、例えば外部の講師として地域の方を呼んでくるとかそういった形につなげることはできるかと思います。今もやっておりますけれども、それをもうちょっと拡大して……

(小林市長) 皆さんにお話するのもおこがましいような感じはしますけれども、おそらく飯坂の佐藤一族がですね、あまり語られる機会が少ないのは、あれも戊申戦争の時の会津藩と同じで、要は敗者の側なのですね。負けた側なのですね。頼朝の一族に滅ぼされた側なのですよ、奥州藤原氏とともに。そのため、歴史の中でやっぱり抹殺されてきたのではないかという気がするのですね。辛うじてその歌舞伎の中に佐藤忠信がでてくるわけなのですけれども、それすら知らない人が福島の人でも多いですね。歌舞伎の中にこの飯坂に住んでいた人がでてきてとか、そういうものをもっとこう知ってもらえたらいいのじゃないかと思いますけどね。

(芳賀教育委員長) 前の国体の時に乙羽の椿というオペレッタですかね、やったこともありますよね。

(小林市長) 私、東京文化会館で見えています。

(芳賀教育委員長) ああ、そうですか。その時はちょっと脚光を浴びましたね。

(小林市長) それこそですね、マスコットにしているのかどうかっていうのはありますが、そのお母さんもそうですし、継信、忠信自身もそうですけれども、あとは、私はお嫁さん達2人がですね、もっとこう注目されてもいいのじゃないかと思うのですね。甲冑を着て励ましたということがありますけれど、白石の甲冑堂でしたっけ。白石に甲冑堂というのがあって、そこに2人の像というのか、がありますけれど、なんで白石の方にあるのか不思議なのですけれども……

(芳賀教育委員長) 高松市に継信を祀っているのはご存知ですか。

(小林市長) そこまでは知らなかったです。

(芳賀教育委員長) 屋島の合戦、そこにあるはずなのです。

(小林市長) ええ、なるほど。

(芳賀教育委員長) そういったところでは評価をされていても、今おっしゃるとおり、地元ではなかなか知られていないということはありますね。

(小林市長) それから体力ですね。すこやかな体のところで体力が全国と比べて平均値を下回っているものが多いというのは、これはちょっと驚きですね。あとは、教育環境のところで耐震化率のところなのですが、平成26年度現在で67.7%、そして目標値が平成32年度で95.0%とあって、まあこういうふうにすべきなのだと思いますけれども、この実現可能性は大丈夫なのかなというような気がちょっとしましたけれども、これは今までの進捗率では多分無理でしょう。これはどういう考えのもとにこの数値を設定して、それでこれをどうやって実現していくのかですけれどもね。

(菊地教育部長) 今まで教育委員会で時間をかけてやってきた中で、今現在67.7%という

ような進捗率になっていますけれども、これが本当に5年の中で、あとこの95.0%まで持っていけるのかといわれますと、これから耐震診断をやったりする建物もたくさんあります。それからあと補強設計して工事というようになっていくと確かに平成32年度まで、ここまで完成させることができるのかって言われますと、これはなかなか厳しい数字なのかというふうには思っています。

ただ、福島市全体の公共施設の耐震化率というのが、平成32年度までこの目標までもっていくというふうになっていますので、やはり教育委員会としてもここは最終的な目標としてあげざるを得ないのかなというふうに思ってこの数字にさせていただいております。

(小林市長) うーん、なるほど。わかりました。

あとはですね、洋式トイレの件なのですが、学校のトイレの清掃ボランティアで手伝っている方がいるのですね。そういった方の話を聞くとこのトイレの現状は極めて評判が悪いですね。それはその子ども達にとって、特にその小学校低学年というか1年生にとって困った状態なのだと思うのですけれども。自宅はほとんど洋式化されている中で、学校に行くとその和式になっているというのが、なかなか慣れないということがあるようですね。これも一挙に洋式トイレにできるものではないのでしょうけれども、洋式化していく努力は必要でしょうね。

(本間教育長) これについても年次計画で、洋式トイレ化の率を上げていく形で計画に組み込みたいと考えています。

(小林市長) あるいはどうなのですかね。簡易のものを設置するとか、きちんと直すとか一基あたり数十万かかるのでしょうか。そこらあたりもどうするのか考えてもらったらいいと思いますね。何かそれがために不登校になる子どももいるやに聞きましたけれどもね。かわいそうな話ですけれどもね。

(芳賀教育委員長) ウオシュレットが定着しているので、おしりの拭き方から教えないといけない部分もあるかもしれませんね。

(小林市長) そうですね。

あとはこの芸術文化のところで、老朽化した施設・設備の速やかな改修ということで、これはやっぱり必要なものだと思いますね。公会堂も築56年くらいになっているということですね。市民会館も古いですよ。この市内の色々なところを回っておりますけれども、結構市民活動が盛んで、それはとてもいいなと思うのですけれどもなかなか空きがないと。ダンスの団体を作ってやっているけれども、なかなか空きがなくて、場所を探すのに四苦八苦しているというような話も聞きますね。その類の話はよく聞きますけれども、一方でなかなかそういう施設をあっちにもこっちにも造っていくわけにもいなくて、どうしたものかなって思いますけれども。

あとは、学校施設なんかの有効活用。今でもそれなりに学校の体育館というものも一般の方にも解放されているやには聞きますけれど、全般的にみるとそれはどうなのでしょうね。

(本間教育長) 学校の体育館と校庭の利用率について誰か……

(寺内保健体育課長) 学校施設の屋内運動場とグラウンドについては、施設の開放を行っております。夜間とか土、日曜日についての開放ですので、それなりに混み合っている状況ではあります。あと小中学校のグラウンドの夜間照明がついている学校が22校あります。これも10名以上の団体で登録をしていただくというものですので、やはりかなり混み合っている、利用率は高いという状況です。

(小林市長) はい。あとは文化課のところ、今、市の博物館のようなものがない状況で本間教育長が以前言っていたホームページで見られるような取り組みは……

(齋藤文化課長) 今年度より始めておりまして、年次計画によって市の収蔵資料について公開していく予定であります。現地博物館という形です。

(小林市長) そうですね、はい。

あとはこの民家園ですけれども、これは私が市長になってからずっと気になっている施設でして、これはやはり微妙ですね。なんとかもっともって考えてもらえればと思っておりますね。この民家園は、市外県外から来た方々からは、極めて評価の高い施設ですが、平日に行ってみると誰もいなくて、なんとなくこの薄ら寂しいという感じにならないようにしてもらいたいなと思うのですけれども。

そして、なんというのかな、教育施設というふうにはずっと捉えてきたということですが、それはそういう意味合いがあって、当然いいのだと思いますけれども、むしろいってみれば観光資源という認識をもっと強めたほうがいいのじゃないかと思うのですね。そのほうが、民家園ももっともっていきってくるのじゃないかなと思うのですけれども。やはり市内の人にももっとあそこに足を運んでもらい、そして県外から来た人が福島市に来た時に必ず立ち寄るスポットに私はなり得る場所なのだと思うのです。

そのためには、ただ、建物に展示しておくだけでなく、それぞれの建物で例えば、福島はわらじ祭りがありますから、わらじを作る実演をやってもらうとか、あるいは、こけしをあそこでも作ってもらうとか、あるいは、機織りをやっている方々もいますので、そういった方々に利用回数を増やしてもらうとか、地域によっては下駄を作るとかそんなこともあるかもしれませんけれども。福島的な特色を少しいかした取り組みをやってもらえるといいなと思いますけれどもね。あとは、茅葺きの体験をできるようにしてもらえるといいなと思いますけれども。

多分、菊地部長も数年後には率先してやってくれるのじゃないかと思っておりますけれども。

ちょっと話がそれてしまいましたけれども、教育の事業の中にも福島の特徴を少しずつでもこう入れられたらいいなと思っておりますけれども。

その1つとして本間教育長にもお願いしていたのが和算ですね。和算を何らかの形で取り入れないかなと思っておりますけれどもね。それは、この福島のいってみれば庶民文化だと思っておりますけれども、意外と高度な庶民文化ですよ。そういった誇れるべきものもここにありますので、数学に対する関心を高めてもらう1つのツールとして和算を部分

的にでも取り入れてもらおう。まあそれに触れる機会なんかをそれなりにこうつくってもらえるといいのかなと思ったところなのですが。以上でございます。

全般的にはよく考えられたものになっていると思います。

あとは欲を言えばなんですが、ある分野にもものすごく関心のある先生、あるいは得意な先生が自分の学校の生徒だけではなくて、福島市内から関心のある生徒を募って何かこの指導をするようなことがあってもいいのかなと思いますけれどもね。それによっていってみれば、アンダー・アチーバーを減らすということも教育としては大事ですけども、そうではなくて、ものすごくある分野に関心が強い生徒のその部分をさらに伸ばしていくみたいな取り組みも一方ではあってもいいのかなと思ったところです。

(本間教育長) その点については、今年から小学生を対象に、こども大学ふくしまで天文学の渡部潤一さんをはじめ5回の講座を行います。

あとは世界に羽ばたくふくしまっ子育成事業の中で、今度は中学生に対して、そういった上の子を伸ばせるようなそういった事業も考えていきたいと考えております。

(小林市長) なるほどね、はい。

教育というものは極端に際立って特色を出すというか個性的にというか、よその地域と変わったものを必ずやらないといけないっていうふうには私は思いませんが、やはり基本的なものをしっかりと身につけていくことが大切ですからね。

けれども、元々ここにあるものをうまくいかしていくという、そういう発想というものはもう少しあってもいいのではないかと思いますけれどもね。

福島市では、小1プロブレムというのはどうなのですか。それほどひどくないのか、結構問題なのかというところはどうなのですかね。

(本間教育長) 中学校に比べれば小学校のほうは、そうでもないといえますか、例えば不登校とか色々なそういった形でどう表れてくるのかとかありますが、小学校のほうでは、接続的にはうまくいっているのかなと思います。

ただ、幼稚園から小学校まで今度通したような時に、今、接続をやっておりますが、カリキュラム的なもので幼稚園と小学校、保育園と小学校をつなぐような形を考えていってスムーズに移行できるようには考えたいと思っています。

(小林市長) 小学校に上がる時に幼稚園出身の子どもは、授業に参加しやすいというか、わかりやすくと言うと40分ぐらい座っていることができるけれども、保育園出身の児童は、なかなか難しい面もあるやには聞きましたけれども、実際にはどうなのですかね。

(古閑学校教育課長) データを取ったわけではないのですが、保育所の場合も最近は小学校に向けてのいろいろな教育的配慮をした上で、入学をさせるという傾向がでておりますので、当然幼稚園に比べれば、目的が若干違いますので、対応の仕方が違うとしても遜色ない状態に今のところはあるように思っています。先ほどの小1プロブレムとの関係にもなるわけですけども。

(小林市長) それから給食の関係で食物アレルギーが問題になっておりますけれども、食

物アレルギーを持っているその児童生徒の把握というのはしっかりできているわけなのですかね。誰がどういう物質に対して注意が必要かとかそういう把握はしているのですか。

(古関学校教育課長) エピペンを持っている子ども達の把握はしております。

(小林市長) この場合、エピペンというのは各親のほうで全て準備するというふうになっているのか、あるいは、学校にも何かそういう備えというのはあるものですか。

(本間教育長) いや、親が子どもに持たせるという形です。

(小林市長) なるほどね。あれは蜂に刺された時にも使うのですよね。

(本間教育長) 前の教育委員会でもあがったのですが、6ページのところに不登校が改善された割合というのをこのままの形であげたわけですが、不登校が改善された割合ということを示す自体、それが逆に学校関係者とか子ども達を含めた与える影響ということで、これは問題ではないのかという教育委員会の中での話もあったのですけれども皆さんいかがですか。

(小林市長) この5番の主な指標の中のものですね。

(本間教育長) そうですね。一番下のところの。

(芳賀教育委員長) 色々な理由があるにせよ、学校に行きたくないという子どもなのですね。ですから一面、改善しようとする姿勢が学校に来させようという意味合いにもなるわけですね。そうすると学校に行きたくない子どもに対するプレッシャーにもなりかねないし、また、教職員の立場からしてもこれを改善しなくてはいけないという役割を自分たちが果たさなくてはならないとなれば、子ども達に学校に来なさいという色々な方策をとらなくてはいけないという圧力にもなるのじゃないかという議論を我々はしていたわけなのですけれどもね。

(小林市長) 高校だとその高校のかわりといいますかフリースクールがあるのですよ。それはどういう学年からなのですかね。中学生なんかもフリースクールの対象になるものですかね。

(本間教育長) 実質的には学校に来ないで、学校に入った段階からフリースクールに行っているという小学生も福島市ではいます。それは、親が学校じゃなくてフリースクールに入れるという……

(小林市長) 市内にそのフリースクールといわれるものは何カ所位あるのですか。

(古関学校教育課長) まず、大きなところでは1カ所ですね。ただ、文科省では認めてはいないので……

(小林市長) そうするとそういうところで6年とか3年間過ごしてきた人は、義務教育を修了したことにはならないわけなのですかね。

(古関学校教育課長) ただ、卒業認定につきましては、校長の判断でございますので、仮に不登校が続いたとしても、義務教育を終えたという状況を作らないことのほうが、本人に不利益であるということであれば、卒業認定はさせていただいているところであります。夜間中学とか色々な方法がありますけれども、その段階では認定をしております。

(小林市長)この目標値を見た時に、現状は例えば小学校のところが0.38%、そして0.39%というのは全国ということなのですか。

(本間教育長)そうですね。

(小林市長)目標値を0.30%とした時にこれが先生方からしてかなり厳しい数値というふうに受け止められるとそういうことになる可能性がありますよね。それがほどほどの目標値として設定されていれば、そういう負担感というのが極端な行動に走る危惧は少ないのかなと思いましたがけれども、皆さん方からみた0.30%とか2.60%という数値がどういう感じなのかということによりけりなのではないでしょうか。

これについては、例えば目標値が必ずこのくらいじゃないといけないというつもりもありませんし、必ずこれを載せなくてはならないというつもりもありませんけれども、ただ、何かに取り組むからには数値化できるかどうかは別にして、目標というのはそれぞれあるものなのだろうなとは思いますがね。

(古関学校教育課長)このことについてよろしいでしょうか。

まず、不登校の出現率については、全国比と比較して一応、目標を設定させていただいているところです。学校現場としては、不登校というのは一番課題だと捉えています。特に中学校は多いわけですね。その原因も当然個人差はあるにしても、学校としてどういう関わりをしていけばいいのか、担当としては毎日家庭訪問をしたりしながら、働きかけをしたり、つないだりはしているわけなのですが、その中で累計30日以上の不登校者についての毎月の確認並びに復帰傾向にある子どもの数というものも大事にしております。それは、プレッシャーというよりは、学校としては努力の成果、まあ、成果主義ではないのですけれども、そういった意味合いも当然あるわけなのです。それで出現率だけではなくて、復帰率と両方、両輪のような形で掲載することも1つの方法なのかなということで、今回こんな形を取らせていただいたわけなのですが、それがこうプレッシャーになってしまうということも当然考えられますので検討をさせていただいて、2つ挙げるか、1つにするかというあたりは少し時間をいただいて検討させていただければと思います。ただ、趣旨はちょっと今申し上げたようなことです。

(小林市長)私は基本的に、目標は目標として載せることはいいことではないかと思っていますけれどもね。ただ、確かに弊害が強くなるようであればそこは心配ですけれどもね。今の説明のような感じで現場の先生達が認識してもらえるのであれば、今聞いていて、いいのかなとは思いましたがね。

このようなものを作って福島市内における教育関係の方々の認識を統一していくというか、共通認識を持つことはやはり大切ですよね。やはり目指す方向性は1つにしてそれに向けて皆で取り組んでいくことが大切なのかなと思いますけれども。

そういった意味ではこのような計画が作られるということは非常に重要なことではないかなと思いますね。

なかなか教育というのは難しいものだとはい、私も思っていますけれどもね。

(三浦総務課長) それではよろしいでしょうか。

意見交換につきましては、これで終了とさせていただきたいと思います。

最後になりますが、次第の4番、新教育振興基本計画と大綱の関係及びスケジュールにつきまして、事務局のほうから報告をさせていただきたいと思います。

資料の19ページをお開きいただきたいと思います。こちらにつきましては、4月に開催させていただきました、第1回目の総合教育会議のほうでもですね、同様の資料を提示させていただいております。

左側が教育振興基本計画、そして、右側が教育の大綱ということになっておりまして、スケジュール等を掲載させていただいているものでございます。

まず、今後のスケジュールでございますが、本日の総合教育会議を受けまして、左側にあります来週の21日に教育振興基本計画策定委員会、こちらを教育委員会のほうで外部有識者を交える中で意見聴取をしていただくと。なお、さらに来月の4日には教育委員会協議会でこちらの教育振興基本計画の素案を最終的に決定するという予定というふうになっております。教育委員会で決定された計画の素案を市長が策定することになります、教育に関する大綱とするという基本方針のもと、今現在、来月、11月の20日を予定しておりますが、第3回となります福島市総合教育会議を開催させていただき予定でございます。

本日様々な意見交換をさせていただきましたので、それを踏まえて今後基本計画のほうも進めていただけるものというふうに思っているところでございます。

なお、現時点におきます、今後のスケジュールの全体図もまだ予定ということになります、掲載させていただいておりますので、併せてご確認をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

皆様から何かご発言はございませんでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(三浦総務課長) ないようですので、以上をもちまして、本日の福島市総合教育会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

午後2時54分 閉 会
